# 北総の里

発行日　2016. 7. 31
第　235　号
（第１回発行 1974年４月１日）
発行所　北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎　0478-86-3003
FAX 0478-86-3295


**北総育成園のホームページが新しくなりました！**

施設の概要や理念，利用者の様子，園長からのお知らせ等，盛りだくさん！ぜひアクセスしてみて下さい。

**ホームページアドレス**
http://www.hokuso-ikuseien.org/

**Ｅメールアドレス**
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

## 特集「くり返し“平和なくして福祉なし”」

２０１６（平成28）年度も半分過ぎようとしている。それにしても世の中は常ならずだ。少しもじっとしてくれない。いろんなことが立て続けに起こり、さらに、また遠慮無くいろんな事が起こる。平和な国、日本も決して例外ではない。４／14の熊本地震はその一回に留まらず約一か月地震が続き、その地震は雨期の長雨と重なり大変な難儀状態になっている。あの加藤清正の不朽の熊本城も石垣が崩れ屋根瓦は落ち、無残な姿を曝している。舛添東京都知事の辞任も唐突でよく分からない。その発端は週刊文春。ペンは剣より強しと言うが…。沖縄でのアメリカ軍属による女性殺害事件も沖縄の置かれている立場を改めて浮き彫りにした。その抗議集会が催された６月19日（日）、筆者は現地でその集会に立ち合った。梅雨明けた沖縄の陸上競技場はカンカン照り。約6.5万人のその集まりは圧倒的であった。

６／23、国民投票でイギリスはＥＵ離脱を選択。たちまち世界の経済が反応して株が大幅下落。今年は期待できるぞと下馬評高かった阪神タイガースは６月末には最下位転落。一ファンとしては情けないかぎり。７月10日は参議院選挙の投票日である。

鴨長明の方丈記ではないが、人生は諸行無常だと観念したくなる。〝ゆく川の流れは絶えずしてしかももとの水にあらず。よどみに浮かぶ泡沫はかつ消え、かつ結びて久しく止まりたる例なし…〟。

しかし、人生は愚痴や泣き言では切拓けない。コツコツと我が道を見つめ、歩み続ける多くの先達の存在。共同生活の家〝なずな園〟が長崎県の片田舎、佐々町に開園したのは昭和37（１９６２）年のこと。主催者・近藤原理先生32才。奥さんの美佐子さん。幼子二人。多い時には10人以上の障害者を受け入れ、田を耕し、ブタを飼い、お茶を作る。制度の恩恵のない自給自足の共同生活。〝共生〟〝共感〟〝共老〟の日々。その実践の中から原理先生は沢山の言葉を紬だし世に発信していった。〝やさしい言葉で深い思想〟である。そのなずな園が閉じられたのは平成12（２０００）年のこと。この間37年の歳月。原理先生を慕って全国から沢山の関係者がなずな園の門を叩いた。再び、全国に戻ったそれらの人々は地元に〝なずな〟の種を蒔いた。無数の〝なずな〟が全国に拡がっていった。老いて若し。その後の年月を原理先生は全国の無数の〝なずな〟を訪ね、講演活動を重ね障害者福祉のあるべき姿について発信を続けている。

この６月18日（土）19日（日）、第20回目〝沖縄なずな〟福祉研修開催。車椅子の原理先生は今年85才になられた。どうしても沖縄の皆さんに今の〝私を発信したい〟。思うようでない体に鞭打って飛行機に乗った。会場は宜野湾市。普天間飛行場は目と鼻の先。原理先生を囲んでの沖縄なずな研修は折しも、米軍事件抗議集会と重なった。沖縄慰霊の日は23日。〝平和なくして福祉なし〟。原理先生は言葉を搾り出すように今の時代の行く末を案じられた。（武井）

▶第24回なずな沖縄障害者教育福祉合宿研。近藤原理先生（85歳）が「平和なくして福祉なし」の心を熱く語られた。H28・6・19

特集「くり返し〝平和なくして福祉なし〟」

# 沖縄・平和を考える旅　H28・6／16～6／19

## 第24回なずな沖縄障害者教育福祉合宿研究会に参加して

猪田　昌宏

6月18日（土）。第24回なずな沖縄障害者教育福祉合宿研究会初日の最初の講演は平良さんという今年92歳になられる女性の方からの沖縄戦体験談。実娘の川崎さんも同席してのお話であった。平良さんは当時19歳、挺身隊として滋賀県で造船に携わった。滋賀に向かう途中、船が何度か魚雷を避けながら命からがら滋賀に辿り着いた。滋賀にいた事で沖縄戦から逃れる事ができたが、戦争が終わり沖縄へ戻る途中、原爆が落とされ何もなくなってしまった広島を通り、友人と二人で手を合わせたという。平良さんには妹さんがいた。戦争が終わって9年が経ったある日の事、精神的な異常が見られるようになった。明らかに戦争の後遺症と思われる症状と疾患で、妹さんは現在もなお療養施設に入所されているという。平良さんの娘、川崎さんは母の苦労話や戦争が原因でどうにもならなくなってしまった伯母の話を聞いて育ったという。現在、平良さんは自身の戦争体験談を、そして妹の事を、娘の川崎さんは平和や戦争へのメッセージを三線で弾き語りして、親子二人で反戦運動や講演をされているという。

なずな沖縄研修二日目。思うようにならない身体を押して参加して下さった原理先生の出番である。ここでは長く〝なずな〟を支えて来られた福岡県の大場先生が、ご無理できない原理先生をサポートしながら、スライドで〝なずなの日々〟を振り返る形をとった。原理先生の生の声を聞きながら改めて私自身も〝なずなの日々〟を実感できる貴重な時間だった。原理先生はその話の中で北総育成園の事を紹介してくださった。「北総は利用者と職員が長年、集団で一緒に働いている。働く事が利用者と職員、人と人とを繋いでいる」。北総で園長の元で働く者として本当に嬉しい原理先生からの言葉であった。私自身もつい独りよがりになりがちなところもあるが、一人では生きられない、周りの人に助けられ、〝顔を立ててもらい、立つ瀬を残してもらい、折り合いをつけてもらって〟の自分である。そして原理先生の「あるがままに当たり前に」「夢・ゆとり・ユーモア」といったシンプルで具体的で分かり易い、でも本当に奥が深い理念を原理先生の口から改めて聞かせて頂いた貴重な時間となった。

北総は〝原理先生お手伝い〟として、この1月と3月に椎茸原木切り出し、菌打ちに遥々長崎の原理先生宅に押し掛けた。その様子が長崎テレビでの原理先生近況紹介の10分ほどの映像の中の一場面として紹介されていて、何だか嬉しかった。

研修の帰途、6月19日、米軍属による女性殺人遺体遺棄事件へ抗議する為開催された沖縄県民大会に少しだけ参加。参加者6万5千人とも言われる中には小さな子供や若い世代の姿も多くあった。しかも一人二人で参加しているのでなく、二世代三世代と家族で参加していた。沖縄の人達は自分の先祖や家族の体験を子へ、子から孫へと絶対に忘れてはならない事実として受け継いでいるのだと感じた。（猪田）

▲親子で平和の大切さを語り継ぐ母の平良さんと娘の川崎さん。三線の音が胸に響く。H28.6.18

## 沖縄戦地を訪ねて　高橋　洋平

### ①沖縄平和記念公園、平和の礎、沖縄平和記念資料館

6月17日（金）、午後2時。糸満市にある沖縄平和記念公園に到着。はじめに平和の礎を訪ねた。この沖縄戦で亡くなられた一人一人の名前がぎっしりと記してあった。驚いたのがその礎の多さ。事前に沖縄戦について調べた際、20万人以上の人々が犠牲になったとあったが、実際に礎を見ると沖縄戦がいかに多くの犠牲を出してしまったかが目に見えて分かった。その後平和の礎の隣にある沖縄平和記念資料館2階の資料室を見る。降伏しようとした日本人を日本人が裏切者として殺したり、洞窟に隠れているときに敵に見つからないように子供を殺すなどという資料を見ていると、日本はどこの国と戦っているのか、なぜそんなことで死ななければならなかったのか…という感情が湧き、胸が締め付けられる気持ちだった。降伏もできず、外に出たら銃弾の嵐、中にいてもいずれ殺される。こんな状況下にいた沖縄の住民はどんなことを思ったのか…私自身改めて戦争の恐ろしさを実感することができました。

### ②ひめゆりの塔

同日午後4時。平和記念公園にほど

近いひめゆりの塔に到着。ひめゆりの塔は、沖縄戦末期に沖縄陸軍病院第三外科が置かれた壕の跡に建つ慰霊碑。慰霊碑の名称は、当時第三外科壕に学徒隊として従事していた「ひめゆり学徒隊」に因む。戦局が絶望的となった昭和20年6月18日、突如として出された学徒隊解散命令。米軍が目の前に迫り砲弾が飛び交う中、生徒たちは壕を出て、自分の判断で行動しなければならなかった。怪我で動けず壕の中で命を落とす生徒、壕を出ても砲弾に吹き飛ばされる生徒、仲間と海に身を投じる生徒…。翌日19日には米軍のガス弾攻撃を受け壕の中にいた80名あまりの人々が亡くなった。ひめゆり学徒隊が動員された沖縄師範学校女子部と県立第一高等女学校の生徒、教師２２７名がこの沖縄戦で亡くなった。実際に隠れていた洞窟、隣接するひめゆり平和祈念資料館に展示された生徒一人ひとりの写真を見ていると、なぜ献身的に看護した彼女たちがこんな死に方をしなければならなかったのか、国はこんな人たちを助ける方法を考えなかったのかと怒りさえ覚えた。今の私たちの生活がいかに平和なのかを実感すると同時に、この人たちの犠牲をこれからも語り継ぐことで戦争の恐怖を若い年代も忘れないのではと感じた。

▲平和の礎に立つ。若い世代が平和の尊さを発信していかなければ…。H28.6.17

**沖縄研修を終えて**

今回の研修を通して、私自身沖縄の歴史について知らないことばかりでした。インターネットや本の情報ではなく実際に足を運ぶことで戦争の悲惨さ、平和の大切さを実感することが出来ました。また近藤原理先生の「平和なくして福祉なし」という言葉。今までは何となくしか分かっていませんでしたが、今回園長より様々なところを案内してもらうことで、戦争が起きて一番最初に犠牲になるのは障害を持った人たちであり、平和がなかったら障害を持っている方の支援も助けることも難しくなることを改めて感じました。この研修をきっかけに一人でも多くの人に沖縄のこと、戦争の恐怖、平和の大切さを伝えていけたらと思いました。今回このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この研修で学んだことを今後の仕事にいかしていきたいと思います。

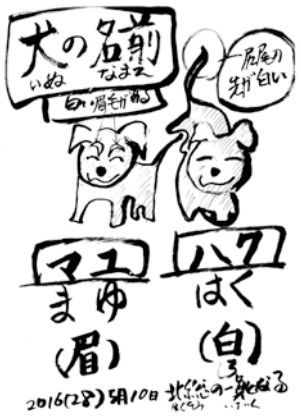
## 太田川のほとり ⑬⓪

### ハク・マユのこと

前号の広報紙で、14年間北総の仲間として暮らしていた犬のハナコが天国へと旅立ったことをお伝えしましたが、ハナコの死から半月ほど経った頃、利用者から「また犬を飼いたい！」という要望がたくさん上がりました。その要望を受け5月6日からかわいい仔犬二匹（二匹ともメスの黒犬）が新しい仲間として加わりました。目の上に眉毛のような白い毛がある犬を「マユ」、尻尾の先が白い犬を「ハク」と名付け、元気にスクスクと成長中。ちょっと食いしん坊ですが愛くるしいその姿は園の生活に活気を与えてくれています。

園長が職員へ「障害を持つこの人たちを大切にする視点」として教えることに「生きものこそ最高のオンブズマン」という言葉があります。生きものは「動物」と「植物」がありますが、植物を通しての心遣いは「一期一会一輪の花」です。出勤途中に野に咲く一輪の花を摘み、居室の一輪ざしに活ける。この人に合った花はどんなだろう？と利用者の顔を想い浮かべながら飾るその所作の中に、この人達に謙虚に寄り添う為のヒントがたくさん潜んでいます。一方「動物」を通しての心遣いは毎日の餌、水やりに始まり犬小屋周りの掃除や散歩でしょうか。もちろんその役割は日毎に決まっているわけですが、「当番の職員がやるだろう」と犬の前を通ってもそこに心がない時、物言えぬこの人たちの事もきっと同じように扱ってしまう怖さが潜んでいます。動物も花も言葉がありません。それは自分の不如意を言葉で正確に表せないこの人たちと似ています。「言わないからわからない」ではなく「言えないからこそ想像する、目と心を配る」姿勢が大切。花や犬が生き生きとしている環境は、この人たちも大切にされていることに繋がります。

（絵鳩）




〈命名・イラスト：武井〉

▲向かって左が「ハク」、右が「マユ」食べ盛り遊び盛りのお転婆娘!?

# 平成28年度 どくだみ採り報告

北総にとって6月は活気に満ちた一年で一番忙しい月。今年も多くのボランティアの皆さんのお力添えを頂いて〝どくだみ仕事〟に全力で取り組むことができました。北総の〝働くこと生きること〟の暮らしは、利用者の高齢化で少しずつ、その仕事は小さくなっています。林産班のどくだみ採りも一時の事を思うと、3分の2程に縮小。それでもこの時期にしかできない自然の懐に抱かれたどくだみ採りの仕事は職員の力を上げるとても大切な仕事。天候にも恵まれ、今年もボランティアの皆様のお力を借りながら、何とか目標達成。一段落することができました。

6月のこの辺りの野山であれば、いつ、どこで蛇に会ったり、ガマガエルに会ったり、山道に迷うかもわかりません。今の世の中はスマホや携帯電話に支配され、自然の野山から遠ざかるばかり。しかし、人間はコンピューターではありません。「自然の摂理の中の一つの生き物に過ぎないと知る機会を持つ事が何より大切」と、110歳のお医者さん、日野原先生は申しております。北総の〝どくだみ採り〟の意味はそこにあります。（菅谷）

**今年度のどくだみ採り実績**

| お手伝い頂いた参加者 | 実施日 | 収穫量 |
|---|---|---|
| ・東庄ライオンズクラブ4名 | 6/2 ㈫ 晴 | 44束　約100kg |
| ・明るい社会づくり 船橋市推進委員会25名 | 6/9 ㈫ 雨 | 73束　約300kg |
| ・保護者のべ36名<br>・沖縄蒼生学園職員2名<br>・船橋市 吉野さん | 6/14 ㈭ 晴<br>6/15 ㈮ 晴 | 2日間合計150束<br>約450kg |
| ・職員供出分 | 6月中 | 合計456kg |

どくだみ採りのお力を貸してくださったボランティアの皆様から感想を寄せて頂きましたので、ご紹介致します。

**①東庄ライオンズクラブ　宇井　秀雄**

去る6月2日に、北総育成園さんのどくだみ採取に、参加させていただきました。これは当クラブの今年度の事業計画のひとつでもありましたので、実行日の連絡を頂き当日は正直、勇んで出発をしました。

参加した会員は当クラブの嶋田辰雄会員、大網正敏会員、海寶和子会員と私の4人です。その外、椎名幸治会員が、前日、自宅近くの山林で採取した、軽トラに半分くらいのどくだみを大網会員があずかって参加しました。

当日朝9時に同園の林産棟に集合して、同園のマイクロバスで利用者の皆さん、並びに職員の皆さんと同乗して、小見川中学校近くの山林に分け入って摘みはじめました。初めてでしたが、どくだみが密集しているところをしゃがんで、1、2本ずつ鎌で刈り進んでいくのが、結構腰にきました。

林産棟で利用者の皆さん職員の皆さんと一緒に弁当をご馳走になって、午後、その採取したどくだみを整理の仕方を教わって束ねました。採取のときや、また午後の整理して束ねるとき、武井園長先生や利用者の皆さん、また職員の皆さんが極く普通に冗談をいいながら作業しておられたことが、私は非常に心が和み、最もほのぼのとしました。作業しながらメンバーで、来年も参加しようか、というようなことを話し合ったりしました。

帰り間際に職員の菅谷大輔さんが、私を須賀山城址まで軽トラで案内してくれました。私は開山祭に参加出来ませんでしたので、皆さんの三年間の伐採のご苦労を思い、また、戦国時代の歴史知識の乏しい私にも、東氏を偲ぶ思いが込み上げてきました。

**②明るい社会づくり船橋市推進委員会　第七ブロック　宮内　啓衣**

今年、初めてボランティアに参加させて頂き、長年の思いがかないました。先ず、感激したのは、職員の方々の明るい笑顔と温かい対応でした。園長様はじめ、こんな方々に囲まれている園の方々は、幸せだなと思いました。日々のご努力は、大変だと思いますがそれを感じさせない、優しさに私はとてもさわやかで、ほのぼのした一日をすごさせて頂きました。決して沢山のおやつやおみやげを頂いたからではありませんが、合わせてお礼申し上げます。強い雨の中の出発で、どくだみ刈りが、できるのかと心配しましたが、小雨と杉の木立の中で、雨は気にならず、行うことができてよかったと思います。只、要領も悪く、余りはかどらず、昨年に較べて少なかった様で、申し訳なかったと思います。伺うと、場所の設定も大変らしく、行って採るだけの私達に、心使いをして下さって感謝しております。きれいな空気と、田舎を思い出すなつかしさで、楽しくあっという間のどくだみ採りでした。揃える場面では、職員の方、園の入所の方も、手慣れた様子で、息もピッタリで、とてもほほえましく、私達に「また来年もきてね」と言って下さりうれしかったです。時間も限られ、本当にささやかなボランティアでしたが、園の方ともっとふれ合う事ができたらよかったなと思いました。作られた花や野菜も安く買わせて頂きありがとうございました。船橋の施設でありながら離れて

▲東庄ライオンズクラブの皆様とのどくだみ採り。共に汗を流しまた一つ絆が深まった。H28.6.2

いる事もあって市民にもあまり知られていないのが残念です。

今回のボランティアを通して、弱い立場の方々をこんなに深い愛情で、見守り、支えて下さっている事に、感動し、私自身、とても温かな気持ちにならせて頂きました。長年の受け入れの中で、できた絆もすばらしいと思いました。私もこれからも、色んな形で、お役に立てる事があれば、また、参加させて頂きたいと思います。本当にありがとうございました。

**③明るい社会づくり船橋市推進委員会**

**第七ブロック　平澤　照美**

今日は初めて参加させて頂きありがとうございました。空気が良くとても良い所に来させて頂きました。雨も降っていましたが、屋根のある所でらっきょうの皮むきを一生けん命させて頂きました。職員さん達が誠実に笑顔で接して下さりあっという間に時間が過ぎていきました。とても楽しかったです。

▲生憎の雨の中、カッパを着て山に分け入って下さった「明るい社会づくり船橋市推進委員会」の皆様。本当に頭が下がる思いであった。H28.6.9

一つ一つ手作りの野菜や花や陶芸品など感動しました。最初のあいさつで園長さんが涙ぐんで話をして下さったことがとても印象的でした。又チャンスがあれば是非もう一度参加させて頂きたいと思いました。

今年も沖縄宜野湾市「蒼生学園」の職員の方2名がどくだみ採りの応援に駆けつけてくださいました。蒼生学園の砂川施設長と北総の武井園長の友情により実現した職員研修であり、今年で3年目となります。感想を寄せて頂きましたのでご紹介します。

**沖縄・社会福祉法人 蒼生の会**

**就労支援 美ら風　亀谷　長一**

今でも目を閉じると杉林の中で健気に咲いているどくだみを思い出します。

6月13日（月）から16日（木）の3泊4日、千葉県の北総育成園にて、どくだみ採りに初めて参加をしました。

今回で3年目となり、最初はあいにくの雨模様でしたが、2日目からは天気も回復し予定通りどくだみ採りを行うことができました。利用者・保護者・職員が参加しての大がかりの取り組みでした。収穫中は、皆さん和気あいあいと助け合いながら進んでいき収穫も目標を達成することができホッとしました。

どくだみ採りの合間に、須賀山城跡の案内を武井園長がなさったり、施設や各班の見学を職員の絵鳩さんに案内してもらったり、作業の慰労会・職員交流会にも参加させてもらい有意義の4日間になりました。

北総育成園で過ごして感じたことは、「働くこと生きること」「一期一会一輪の花～野の花こそ最高のオンブズマン～」等の言葉や利用者村議会活動は、利用者の視点に合わせた心構え、取り組み方を意味しているものだと思い、私自身も原点をみつめるために良い勉強になりました。

今回お忙しい中、武井園長はじめ職員の皆様には、色々お世話になり本当に有難うございました。

**沖縄・蒼生学園　みらい班**

**小橋川博康**

6月13日（月）雨模様の中成田空港に到着。迎えに来てくれた、絵鳩課長・菅谷林産主任の説明では「明日からは晴れるのでどくだみ採りは出来そう」との事。北総育成園に到着すると武井園長及び白樫副園長から園の説明及び園内を見学させて貰う。どの居室にも園長の『一期一会一輪の花』の方針で一輪挿しに花が飾られていたせいか、各居室共利用者の個性が出ていました。2日目どくだみ採りを行う。沖縄県にはない「どくだみ草」が杉林に多く自生していることや、採った直後は独特の臭いをかもしだすが、乾燥加工して飲むと癖もなくおいしく頂けました。3日目は採ったどくだみ草から蔓等雑草を選別して束ねて、ビニールハウス内に干す作業、最終日はひょうたん栽培の棚作りを行いました。今回の3泊4日で体験した事はすべて初めてでした。又今回の研修中に韓国の特別支援学校と姉妹提携した6月16日にあたった為、14日の昼食弁当は韓国料理でした。又姉妹施設提携週間として施設内に韓国音楽を流す等配慮をされていました。今回の研修で北総育成園がどくだみ採り等に多くの地域ボランティアの協力、東日本大震災での地域からの援助。又、北総育成園も施設の裏山にある須賀山城跡を整備する等地域貢献を行い近藤原理先生の話した施設が地域と「寄り添ってともに生きる」を感じました。最後に研修が終わった後も武井園長はじめ職員の方と交流を持てる場を作って下さいまして有難うございました。

▲保護者どくだみ採りボランティア。どくだみ採り・どくだみ束ね・どくだみ干し一段落。「今年も何とかやりきったぞ」。二人の沖縄からの助っ人を真ん中に記念撮影。H28.6.14

## 街道をゆく ㉝

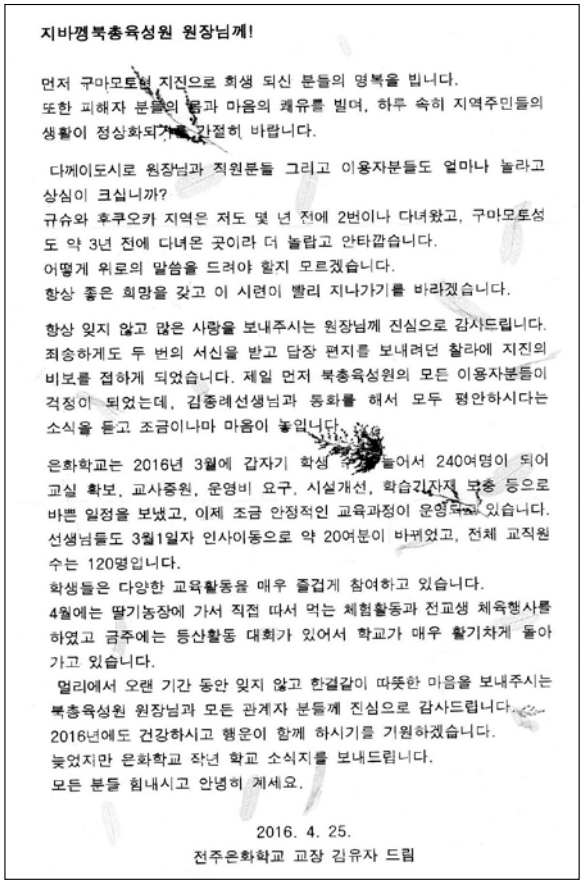
### 韓国からの便り
### 海の向こうの姉を想う…
### 韓国デー週間

韓国恩花学校と姉妹提携を結び今年で23年目を迎えました。今年度も恩花学校と姉妹提携を結んだ6月16日を韓国恩花デーとし、6月12日から6月22日までの10日間を韓国恩花デー週間として取り組みました。期間中はポスターや韓国訪問時の写真の飾り、館内は韓国ムードが漂います。ポスターや写真を新棟食堂前へ飾ると、利用者も興味を持って覗いてくれ「かんこくいった！」と田口さんが話してくれたり、柳松さんが6月14日に振る舞う韓国弁当の紹介写真を「おいしそうだね！」楽しそうに見ている姿がありました。また、今年も有名な韓国民謡である「アリラン」と「イビョル」の曲を館内に流しました。音楽が流れると耳を傾けてみんなが聞いてくれ、時には「アーリラン♪」と歌いだす利用者さんの姿もありました。16日の姉妹提携日、韓国恩花デー当日は、韓国恩花学校へ皆で訪問した思い出話に花を咲かせ、姉・恩花学校を想う日となりました。毎年利用者さんが楽しみにしている韓国弁当は、今年は6月14日の保護者どくだみボランティアの日にセッティング。保護者にも韓国弁当を味わって頂くことができました。メニューはプルコギ（焼き肉）、ズッキーニの炒め物、ほうれん草とえのきのナムル、キムチ。筍と卵のスープ、韓国のまんじゅうとジュース、メロンも付き、今年も厨房職員が味見しながらおいしく仕上げてくれ豪華なお弁当になりました。

今年も韓国ムードの漂う楽しく豊かな韓国デー週間となりました。韓国恩花学校との交流も23年目。この交流を継続してこられたのも、武井園長が姉妹という関係を毎年大切に続けてきたからだと思います。これからも国境を越えた姉のことを想い、恩花学校との交流を大切にしていきたいと思います。

（韓国恩花学校姉妹提携委員会　チーフ　保科智子）

▲新棟食堂前に掲示された韓国恩花学校との姉妹交流を紹介する写真パネルや万国旗。思い出話に花が咲く。



지바껭북총육성원 원장님께!

먼저 구마모토현 지진으로 희생 되신 분들의 명복을 빕니다.
또한 피해자 분들의 몸과 마음의 쾌유를 빌며, 하루 속히 지역주민들의 생활이 정상화되기를 간절히 바랍니다.

다께이도시로 원장님과 직원분들 그리고 이용자분들도 얼마나 놀라고 상심이 크십니까?
규슈와 후쿠오카 지역은 저도 몇 년 전에 2번이나 다녀왔고, 구마모토성도 약 3년 전에 다녀온 곳이라 더 놀랍고 안타깝습니다.
어떻게 위로의 말씀을 드려야 할지 모르겠습니다.
항상 좋은 희망을 갖고 이 시련이 빨리 지나가기를 바라겠습니다.

항상 잊지 않고 많은 사랑을 보내주시는 원장님께 진심으로 감사드립니다.
죄송하게도 두 번의 서신을 받고 답장 편지를 보내려던 찰라에 지진의 비보를 접하게 되었습니다. 제일 먼저 북총육성원의 모든 이용자분들이 걱정이 되었는데, 김종례선생님과 통화를 해서 모두 평안하시다는 소식을 듣고 조금이나마 마음이 놓입니다.

은화학교는 2016년 3월에 갑자기 학생 수가 늘어서 240여명이 되어 교실 확보, 교사증원, 운영비 요구, 시설개선, 학습기자재 보충 등으로 바쁜 일정을 보냈고, 이제 조금 안정적인 교육과정이 운영되고 있습니다.
선생님들도 3월1일자 인사이동으로 약 20여분이 바뀌었고, 전체 교직원 수는 120명입니다.
학생들은 다양한 교육활동을 매우 즐겁게 참여하고 있습니다.
4월에는 딸기농장에 가서 직접 따서 먹는 체험활동과 전교생 체육행사를 하였고 금주에는 등산활동 대회가 있어서 학교가 매우 활기차게 돌아가고 있습니다.
멀리에서 오랜 기간 동안 잊지 않고 한결같이 따뜻한 마음을 보내주시는 북총육성원 원장님과 모든 관계자 분들께 진심으로 감사드립니다.
2016년에도 건강하시고 행운이 함께 하시기를 기원하겠습니다.
늦었지만 은화학교 작년 학교 소식지를 보내드립니다.
모든 분들 힘내시고 안녕히 계세요.

2016. 4. 25.
전주은화학교 교장 김유자 드림

平成28年４月、韓国恩花学校の金校長よりお便りを頂きましたのでご紹介します。

千葉県北総育成園園長様

まず、熊本大地震による被災者の皆様に御見舞となくなられた方のご冥福をお祈りいたします。一日でも早く日常生活に戻られることを切に願っております。

武井園長をはじめ職員利用者の皆様も大変心配になられたことでしょう。九州福岡の方には２回ほど熊本城も３年前に訪れたこともあって大変驚いております。慰労の言葉も見つからない気持ちです。

希望を持って耐えきれることを願っております。

いつも、我が恩花学校のことへのご配慮ご鞭撻心から感謝申し上げます。また返信が遅れて申し訳ございませんでした。その中震災の悲報を知り北総育成園が心配になって電話で話を聞いて無事だということで安心しました。

恩花学校は2016年３月新学期に入って、生徒の数も増え240名になりました。教室確保に教職員の増員　施設改善　学習機材補充など忙しく過ごしました。最近になって少し余裕が出てきたところでございます。今年も先生たちの移動もありまして現在120名の先生と共にしております。

生徒達も毎日楽しく明るく過ごしております。４月にはいちご農場へ出かけて体験活動を　また全校運動会もありました。今週に入って登山大会もありまして学校中活気に満ちています。

変わらず遠いところから暖かいご声援をくださる北総育成園園長をはじめ職員利用者の皆様に重ねてお礼申し上げます。

2016年も皆様元気で毎日幸せに過ごせるように願い祈っております。遅くなりました。昨年の恩花学校広報紙を同封させていただきました。それではこれで失礼いたします。

2016年４月25日

全州恩花学校校長　金　有子

# 北総育成園訪問記

北総育成園では、年間を通してたくさんの見学者の受け入れを行っております。同じ障害者支援施設の職員や、特別支援学校の教職員、各保護者会、そして各地域の民生委員会の方々と多岐に渡ります。実際に利用者が働いている作業風景や生活をしている居室の見学を通して「働くこと生きること」「一期一会一輪の花」の北総精神の実践を、お伝えしています。

去る6月10日には浦安市民生委員児童委員協議会の皆様28名が見学に来てくださいました。その時の感想をお寄せ頂きましたのでご紹介致します。

## ◎「北総の里」北総育成園を訪問して

**浦安市民生委員　船橋　富代**

昨日の雨がうそのように晴れ渡り鮮やかな新緑の中、のどかでなつかしい田園風景を眺めながら「北総の里」北総育成園を訪問しました。武井園長のユーモアあふれる説明の後各々の作業所を見学しました。園芸班の立派なお花の苗に思わず注文する人もいました。今盛りのどくだみの葉を乾燥させるための束作り、一針一針ていねいに刺しゅうされる方、和紙作りの「こうぞ」を一生懸命たたいてみせてくれる方、木工班のでき上がった板磨き、らっきょうのひげとり等皆さん一生懸命作業されていました。その後入所されている方々の部屋を見学。きれいに整理・整頓されていて部屋の中には一輪の野の花が飾られ、入口には、手芸班の作品の手作りののれんがかけられていました。「一期一会一輪の花」とは各個室に生けられた一輪の花のことで職員の方達が出勤の際道端の咲いている野の花をとってきて飾っておられるとか。「一期一会・一輪の花」の心とは毎日の仕事に慣れないでその日その日を謙虚にこの人達の障害に向き合うぞ…との意味だそうです。納得する部分が多々あります。入所されている皆さんのお顔がおだやかで優しい表情をされているのは、職員の方達が家族のように温かい思いやりの心を持って寄り添っておられるからでしょう。村議会のこと、地域との交流、姉妹校との交流、海外旅行等施設の中にとどまらず幅広く活動されていることは、頭の下がる思いです。帰りに丹精込めて作られた玉葱・らっきょう・どくだみ茶・しいたけ・切り干し大根・パン等を買いました。家族と食しながら頂いた陶芸班の箸置きと共に「北総の里」のことを話題にしたいと思います。見学に際し、お忙しい中時間を割いて頂き有難うございました。

## ◎北総育成園見学の感想

**浦安市民生委員　高田　昇悟**

私は73歳、民生委員になって一期目の新人です。過去3年を振り返って、高齢者や小学生、中学生との接触が多く、障がい者との接触は少なかった。障がい者の資料は貰いましたが、なかなか実践には至りませんでした。私の周りには車椅子の小学生3～4人とパニック障がいの若者1人がいます。私は障がい者の知識が身についていないということで、接触を逃げていたのかもしれません。今回の研修でまずは接触していきたいと思います。そして我々浦安市は成人の障がい者をどのように処遇しているのか、現状を確認して行きたいと思います。

園に到着して武井園長のレクチャーを受けたのですが、その人柄と考え抜かれたシステムや仕組みの構築に感服しました。

・底抜けに明るい。利用者の1人と組んでの掛け合い漫才みたいに飽きさせない紹介

・自立心や助け合い、リーダーシップなどを養う村長、村議員選挙制度

・地元の人達との連携・お祭りなどの企画・園内外との連携

・行政（船橋市）を巻き込んでの運営　等々

奇抜なアイデアと人徳、包容力の大きさなどからか、行政や利用者は勿論、その親御さんや地元の人達から大いなる信頼を勝ち得ていると感じました。

40年前からこの地に根を下し、毎日この利用者を食べさせ職員に給料を払い、利用者の親御さんたちの希望を背負う日々は、時に筆舌に表し難いご苦労があったかと思います。敬意を表したいと思います。現場を案内してもらい、懸命に明るく働いていることに感心しました。なかには何もしない人もいましたが、そういう個性の人のようでした。ドクダミ茶が高血圧に良いということで、女房の血圧が高いのでお土産に買って帰りました。園長からのご厚意で箸置きを頂きありがとうございました。各個室にもご案内頂きましたが、出来たばっかりで整理整頓されていて綺麗なのでびっくりしました。ほとんどの部屋に花が活けてあり、〝一期一会一輪の花〟を実感しました。

帰り際、バスに乗り込もうとした時に、男性が黙々と道端を掃除していて、挨拶をしてくれました。非常に感動しました。園長の教えを実践していると感じました。また、園長はレクチャーの最後に、ここは田舎で通勤に時間が掛かることもあり、支える人の成り手が不足しているとのお話がありました。確かに大都市から離れていて大変だと思います。私達民生委員の成り手も不足しています。社会福祉協議会の推進委員や保護観察司など他の福祉を支える人達も、成り手が不足しているという話を聞きます。一方、震災でのボランティアには若者が数多く参加しているが、高齢者は自治会、老人会などのボランティアに積極的に参加してこない現状を感じます。

ちょっと心配な事があります。武井園長の存在が非常に大きいだけに、その後継者の育成はどうなっているのでしょうか？武井園長のことですから、きっと抜かりはないと思います。

最後に〝一期一会一輪の花（野の花）〟の精神で民生委員の仕事に当たります。

▲辛うじて動く指先で花活けを作るＡさんの「働くこと生きること」を紹介する武井園長。

## 村議会だより ⑲

5月の北総行事といえば村議会選挙。今年度は第44期村議会選挙となる。4月下旬ともなると村民の中からも「今年は議員出ます。」「どうしようかな…」など選挙を意識した声も聞こえ始める。GWが開け5月11日。第43期村議会の解散式を終えると即日第44期村議会選挙の公示。村長に2名、村議員に11名が立候補。いよいよ選挙に向け本腰が入る。投票日まで1週間。立候補者にとっては不安と期待が入り混じる毎日。その候補者を各担任が真剣に全力で支える。選挙運動で一番アピールできるのは食堂掃除。普段は雑巾を持たない人も、ここぞとばかりに床を拭いて猛アピール。館内中に貼られた担任手作りの趣向を凝らしたポスターも、選挙戦を盛り上げた。

そして迎えた5月18日の投票日。最後の立合演説はダンスあり、寸劇ありのパフォーマンス合戦。今年度の有権者数は192票。この人たちは投票行動は上手ではありません。ゆっくり投票して約1時間。結果第44期村長に見事当選したのは99票を獲得した大河原さん。もう一人の村長候補である福田さんとは僅か6票という僅差での当選となった。当選がわかった時の渾身の万歳から大河原さんの喜びがひしひしと伝わった。

大河原新村長を支える議員戦は、こちらも本当に最後の1票までわからない大混戦。当選確実と思われていた現職議員の票が伸びず、危ないだろうと思われていた立候補者の票が予想以上に伸びる展開。予想外の展開に慌てたのが、現職議員の担任。「あれ？きっと大丈夫、いや、まさか…」と最後の最後まで望みを託したが、大どんでん返しの結果となった。熾烈な村議員戦を勝ち抜いて当選したのが、石井さん、天野さん、山本やさん、堀川さん、斎藤さん渡辺さんの6名。正直、当選してしまって大丈夫か…と思う議員もいるが、ここからが本番。公約にこだわり落選してしまった人に顔向けできるような議員さんでなければ。人格を賭けた真剣勝負はこの人たちの可能性を引き出す最高の動機付け、人間力を付ける何よりの機会。この村議会活動の真髄は「出番と役割のある暮らし」を整えることと「人間力」を育むこと。選挙で身に付いた頑張りや思いやりは当落関係なくその人の生きる力になる。「みんなで北総の里を良くしていこう」。そんな志で40年来受け継がれている村議会活動。第44期北総の里村議会も活気溢れる活動となるよう、全力で支えていきたい。

（余暇部会主任　菅谷 大輔）

# 選挙報告

### 第44期 北総の里村長は
# 大河原一男さん

▲第 44 期北総の里村長、村議員ここに誕生！向かって右より村長の大河原さん。村議員の石井さん、天野さん、山本 ( や ) さん、堀川さん、斉藤さん、渡辺さん。H28.5.18

**第44期北総の里村議会選挙**
**第44期北総の里・村長村議員選挙投票結果**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 【村　長】 | | | | | |
| 当 | 99 票 | 大河原 一 男 | 60 歳 | (元) |
| 落 | 93 票 | 福 田 克 三 | 65 歳 | (元) |
| 【村議会】 | | | | |
| 当 | 27 票 | 石 井 武 明 | 44 歳 | (元) |
| 当 | 26 票 | 天 野 照 人 | 50 歳 | (元) |
| 当 | 24 票 | 山 本 泰 三 | 74 歳 | (現) |
| 当 | 19 票 | 堀 川 明 美 | 44 歳 | (現) |
| 当 | 18 票 | 齋 藤 敬 子 | 54 歳 | (元) |
| 当 | 17 票 | 渡 辺 庸 一 | 57 歳 | (元) |
| 落 次 | 16 票 | 堀 越 正 明 | 56 歳 | (現) |
| 落 | 15 票 | 石 毛 洋 平 | 37 歳 | (現) |
| 落 | 13 票 | 安 部 百合子 | 64 歳 | (現) |
| 落 | 11 票 | 猪 瀬 美佐子 | 39 歳 | (元) |
| 落 | 7 票 | 田久保 茂 | 58 歳 | (現) |

## 編集後記

北総育成園は小高い丘の上にあり、東庄笹川の町並みが一望できます。この時期は田んぼの稲がとてもきれいで、まるで緑色の絨毯を敷いたようです。夜になると7月末に行われる諏訪神社の祭礼のため、各地区で練習している芸座の音色が微かに聞こえ、今年も夏が来たんだなぁとしみじみ思う今日この頃です。

熊本の震災から3か月経ちましたが、未だ、仮設住宅に引っ越せないで車庫や倉庫での寝泊まりを余儀なくされている方が多いとニュースで見ました。大雨による影響で仮設住宅の建設が一か月近く遅れているとのこと。遠く離れているから何もできないではなく、被災地に心を寄せて何か少しでも出来る事に取り組みたいと思います。

今号の「北総の里」は「繰り返し平和なくして福祉なし」と題し、沖縄県宜野湾市で開催された「第24回なずな沖縄教育福祉合宿研究会」に参加した事や、沖縄の旅の中で考えた「平和とは？」に着目し原稿を起こしました。毎年全園体制で取り組むどくだみ採りも「平和なくして福祉なし」の上に成り立つ自然相手の大事な仕事。読者の皆様にもその想いを感じて頂けると幸いです。（絵鳩）